

エコが千代田の自慢です!



CES 通信

Vol.8 2022 SPR

千代田のエコを推進しよう!



Web配信「CES環境講演会」

2022年3月25日(金)より動画配信中。

2021年度(令和3年度)環境講演会は、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、前年度に引き続き動画での配信となります。

今後ますます期待されるゼロカーボンシティの実現のために、今回の講演では「ぐーっと身近になった自然エネルギー由来の電力」をテーマとし、2社の方よりお話しをお伺いしました。

講演 1

テーマ：あなたのお家に初期費用ゼロで太陽光発電を!

講師：東京電力グループTEPCOホームテック株式会社
経営戦略本部長 杉原 広央氏

内容：現在行っている「脱炭素社会の実現に向けて」としたキャンペーンで、東京都補助事業「エネカリ」生活の提案。

「エネカリ」のご紹介

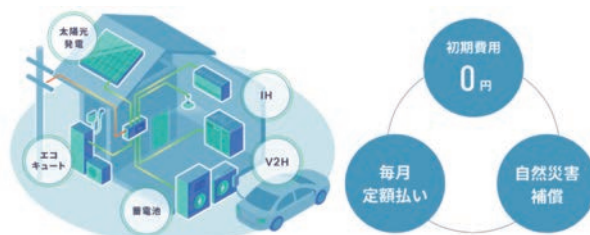
■初期費用ゼロで太陽光発電導入。

■省エネ機器を購入せず利用し、利用期間満了後は、無償譲渡をします。もちろん最新機器に交換して再「エネカリ」もOK。

■毎月、定額の利用料でお支払いのうえ、故障時も修理費用がかかりません。



初期費用 0円 節約も、万が一の備えも。 円で始めよう



■昼間の余剰電力を蓄電池にためて夜や雨の日に利用できます。

■太陽光発電が非常用電源になります。停電時にも安心!!

■余った電気は売電して、収入を得ることもできます。

■故障時の修理サービスがかかりません。

これらの説明をととも分かりやすく丁寧に行っていただきました。

講演 2

テーマ：分散型エネルギー活用の手引き

講師：株式会社エナリス エナリスみらい研究所
カンパニープレジデント 平尾 宏明氏

内容：再生可能エネルギー(以下、再エネ)支援サービスのご紹介。

エナリスは、企業や自治体のお客さまに再エネ活用を支援するサービスを提供しています。

■分散型エネルギーの活用支援

お客さまのもとに点在する太陽光設備や蓄電池、自家発電機といった多数の分散型エネルギーをIoT制御で束ね、1つの大きな電源として活用するVPP(バーチャルパワープラント)サービスをご提供しています。束ねた電力は、電力需給調整や発電量が変動しやすい再エネの制御、発電所としての活用が想定されます。本来の用途とは別の付加価値を生み出し、ビジネスに変えるお手伝いをします。



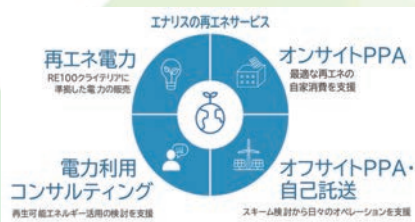
■再エネ導入支援

①再エネ電力の提供②お客さまの敷地内に太陽光設備を設置して活用する方法(オンサイトPPA)③敷地以外の場所にある再エネを活用する方法(オフサイトPPA・自己託送)④電力利用コンサルティングと
いった4つのサービスをご用意しています。

■再エネ発電設備をお持ちのお客さま向け支援

再エネ発電計画の作成や需給管理、売電先確保の代行業務も行っています。

詳細はぜひ講演をご覧ください。



ご視聴は、CES ホームページ (<https://chiyoda-ces.jp>)
または「CES推進協議会事務局」YouTubeチャンネルよりご覧ください。

※講師の肩書きは2022年3月末時点です。

イベントの
ご案内

「CESエコフェア2021」開催 (Web配信)

2019年度まで、皆さまよりご協力をいただいております「エコ&サイクルフェア/千代田のエコ自慢」は、今年度より「CESエコフェア」としてリニューアルいたしました。なお、新型コロナウイルス感染症対策への配慮から、今回はWeb配信にてお届けいたします。共立女子大学・大妻女子大学・東京家政学院中学部の方々にご協力をお願いし、日頃の皆さんの活動成果を発表していただきました。SDGsやエコに関するテーマを各々が一生懸命に取り組み表現されていますので、どうぞお楽しみください。各校の発表の概要を、以下の誌面にてご紹介します。

■動画はCESホームページ (<https://chiyoda-ces.jp>) およびYouTubeチャンネルにて配信予定です。

[CESエコフェア2021]

共立女子大学「サステナブルファッションデザイン」

被服意匠研究室では、「未来のファッションを考える」をテーマとして、研究や産学連携に取り組んでいます。「サステナブルファッションデザイン」は、核となる題材です。

SDGsと地域産業の活性化に貢献するために、北陸発の新技术・生産技術・伝統工芸技術を融合させる取り組みに挑戦しました。開発した革新的な草木染め技術を用いると、植物由来である上に水の使用量も削減できるため問題を解決することができます。

伝統工芸作家、ファッションイラストレーター、パタンナー、縫製など100名を超える関係者と協力して草木染めによるドレスを制作し、そのドレスを用いたファッションショーを本学にて実施しました。

ショーでは、プロジェクト関係者の他に有名アパレル企業の役員や業界紙記者など約100名の観客の前で、石川県のぶどうやゆずやブルーベリー、兼六園の菊桜の花びらや枝などから抽出した染料を用いて美しく染められたドレスを披露しました。

草木染めは、もともと美しいものですが、手間

がかかるため工業的には衰退しました。しかし、革新的テクノロジーによって新たな命が吹き込まれました。そのテクノロジーがもたらす未来を地域の皆さまと協力して具現化したものがこのドレスです。これからも、SDGs達成を目指した研究・開発と、地域の発展に貢献できる活動を続けて行きたいと思っております。



- ①羽織:生地/オパールプリント、地染/浸染、模様染/模様染(兼六園菊桜)
ドレス:生地/牛首袖、染料/兼六園菊桜
②ドレス:生地/レース、シャイニーブレンウィーヴ、染料/能登ブルーベリー
③ブラウス・スカート:生地/牛首袖、染料/石川県産タンニン
④ドレス:生地/ラメレース、シャイニーブレンウィーヴ、染料/金沢ゆず、石川県産タンニン

理事長
だより

コロナ・戦争・気候危機の三題噺

一般社団法人 千代田エコシステム推進協議会 理事長 大森 正之

全世界が新型コロナウイルスと戦っている最中、ロシアによるウクライナへの侵略「戦争」が始まった。

3月1日現在、休戦には至っていない。メディアは、2月28日にIPCCが、気候危機の引き起こす自然や社会への影響に関する報告書を8年ぶりに公表したと報道している。産業革命前から気温が2度上昇すれば、今世紀末までに気候変動による慢性的な水不足に陥る人口が8億~30億人に至ると予測している。

戦争での兵器の使用は人命を損傷し、温暖化物質をまき散らす。建造物の破壊は、その修復に二酸化炭素の不要な排出を伴う。反戦という人類への「定言命法」

(無条件の義務)は、もはや、生命体と非生命体が織りなす多様な生態系の保存という「地球それ自体の倫理」からも強く要請される。

新型コロナ禍は、CESの事業総体に大きな変化をもたらした。環境マネジメント事業では、対面監査が書面監査となった。環境講演会や環境関連イベントは、実施形態の変更や中止を余儀なくされた。しかしながら、私たちは遠隔会議システムを用いた新たな「コミュニケーション・スキル」を身に着けるに至った。それは一般企業や大学でも同様である。禍をどのように福(脱炭素)に転じるか、今が正念場であろう。

[CESエコフェア2021]

大妻女子大学食育ボランティアグループ「ピーち」

食は命と健康の源であるだけでなく、食を通じた幸福感は生活に潤いを与え生きる力を育みます。

このような観点から食の大切さを伝えるために、「ピーち」は栄養・運動・休養の面から心身の健康づくりにつなげる食育活動を行っています。

例えば、和食文化の保護・継承に関する活動、五感の育成に関する活動の他、東日本大震災復興支援活動(三陸の和ぐるみプロジェクト)、および、食に関連したエコなクラフト作り(みかん・ブドウ・玉ねぎの皮やクチナシの実から抽出した色素で染色する作品等)を癒しにつなげる活動も行いながら、多世代交流も目指しています。



また、最近では、栄養・食・健康に関する問題はSDGsの各目標に関連しているという観点から、持続可能な食を支える食育も実践しています。これらの実績により、農林水産省の「食品ロス削減国民運動」、東京都の「チームもったいない」、国産農林水産物の消費拡大に取り組む「フードアクション・ニッポン」、和食文化のユネスコ無形文化遺産登録に関わった「和食文化国民

会議」の各ロゴマークを使用できる認可を得ています。

さらに、千代田区保健所の「ちよだ食育ネットワーク」を通じた食育出前授業への協力、および、地域振興部コミュニティ総務課の「ちよだコミュニティラボ」を通じた他団体とのコラボ活動等、地域連携活動にも力を入れています。

本活動に興味を持っていただいた方は、「ピーち」アドレス(peach@ml.atsuma.ac.jp)へご連絡ください。



[CESエコフェア2021]

SDGsは地域と私たちをつなぐ接着剤 [東京家政学院中学校SDGsプロジェクト]

東京家政学院中学校では、SDGsに関連する社会課題やその解決に向けた取り組みを行っています。世界の諸課題を「自分ごと」として捉えるためには、自分の足下、地域を見つめ直すことが大切です。

そのためには千代田区さらには東京都の現状や課題を肌で感じる事が大切です。今年度、中学2年生では3つのプロジェクトを立ち上げて、それぞれの社会課題の解決に向けた取り組みを行いました。

千代田区のSDGsマップを制作する千代田区SDGs普及促進プロジェクト、多摩川のごみ問題を解決するリバークリーンプロジェクト、東京の山間部の過疎問題を解決する里山復興プロジェクト、どのチームも現地のフィールドワークや取材活動をもとにその解決方法を模索し、プレゼンテーションによって報告を行いました。

どのチームにも共通していることは、ICTやSNSを有効に活用することで、自身の取り組みがより多くの人々につながる工夫がされている、ということです。

さまざまな要素が複雑に絡み合うVUCA時代

において、現地の問題を肌で感じ、共感することが重要です。また、これからの社会を担う若い世代の自由で柔軟な発想こそが社会課題の真の解決につながります。

これからも生徒たちが地域と密接に連携し、そこで生まれた新たな出会いをもとによりよい社会を作り上げていけるよう多様な取り組みを実施していきたいと思えます。



1年生との合同プロジェクトも実施。地域で働く人への取材を通して動きがいや地域への想いをSDGs視点でポスターにまとめました。

2021年度 CES 監査・認証(クラスⅢ)

今年度は、千代田区78部署および民間事業所5社のCES活動に対する監査を実施しました。民間事業者2社(千代田区立障害者福祉センターえみふる・株式会社サンシステム)のみ現場監査を実施し、千代田区を含む他3社については新型コロナウイルス感染予防対策のため、関係書類の提出による書面監査を実施しました。

2021年11月8日(月)に開催された第1回CES認証委員会では、7月・8月の2ヶ月で実施した千代田区78部署(本庁舎・教育部門・出張所等庁外施設)、6月29日(火)に実施したサンシステム株式会社、8月17日(火)の千代田区立障害者福祉センターえみふる、8月27日(金)の社会福祉法人千代田区社会福祉協議会、9月3日(金)の株式会社コンベンションリンクエージ内幸町ホールでのCES監査結果に対する審査と認証が行われ、全て認証されました。

また2022年3月3日(木)に第2回CES認証委員会が開催され、2月1日(火)に実施した三幸株式会社のCES監査結果についても認証されました。

新規参加事業所として申請のあった株式会社ジャパックス、株式会社大同に対するCES監査導入時指導助言が終了しました。2022年度よりCES活動を開始する予定です。

「CES環境活動普及助成制度」のご案内

2021年度のCES環境活動普及助成制度は6件までの申請に対応する予算を用意しておりましたが、結果的に申請は1件のみでした。

この事業につきましては、皆さまのさまざまな活動を応援し、一緒に千代田区の環境を守っていけたらという思いで始めた制度です。大変残念なことですが、コロナ禍で事業活動の制限が余儀なくされてしまったことが申請枠に満たなかった要因の一つとして考えられ、また助成金申請の対象条件に「CO₂削減の意識向上を目的にした活動」という文言が要綱に示されていることも、環境保護活動を行おうとしても、CO₂削減に繋げることは

難しかったのではないかと、深く反省をいたしました。

そこで申請の門戸を広げるため「SDGsの環境分野の活動」を追記しました。今後は申請対象が広がったことで、今まで対象となりにくかった事業活動を展開する団体にも、お気楽に問い合わせをいただき身近な助成制度としてご利用いただけますよう、ご応募を心よりお待ちしております。

子どもたちのためにも、ご一緒に千代田区の環境保護活動を推進しましょう。

お問合せ・お申込み：TEL：03-5211-5085

E-mail：info@chiyoda-ces.jp

「ゼロカーボンシティ」をめざして

世界中で大型台風・集中豪雨・爆弾低気圧の発生による大雪等、さらには毎年の記録的な猛暑や、山火事が随所で発生し甚大な被害が報告されています。そのほかにも、海水温の上昇により魚介類の棲み分けにも大きな影響が出ています。これらの原因は、私たちの日々の生活で排出される二酸化炭素の増加による、地球温暖化の影響というところは長年言われ続けています。

ゼロカーボンシティとは「2050年までにCO₂排出をゼロを目指すことを表明した自治体」のことです。

これまでは省エネ推進に留まる考え方がほとんどでしたが、「ゼロカーボン」への意識を高めるために私たち個人が何をしたら良いかを考え、目標達成のための仕組みを構築し、世代を越えた人々に引き継いでいかなければ

ならないのではないのでしょうか。

例えば、

- ①再生可能エネルギー電力への切り替え。
- ②消費エネルギーの見える化。
- ③蓄電池の導入。
- ④ゼロカーボンドライブ(走行時のCO₂排出量がゼロ)
- ⑤リサイクル(素材の原料化)だけではなくアップサイクル(元の製品や素材を使用したもの)も取入れてみる。
- ⑥地産地消を基本に買い物や保存で食品ロス削減の工夫をする。
- ⑦個人的なESG投資を考えてみる。…etc.

私たちの住む千代田区のゼロカーボンシティ実現に向け、じっくり考え、できることを実践しましょう。



Vol.8 2022 SPR

発行・編集：(一社)千代田エコシステム推進協議会

発行日：2022年3月31日

(一社)千代田エコシステム推進協議会

住所：〒102-8688

千代田区九段南1-2-1 千代田区役所5階

電話：03-5211-5085 FAX：03-3221-3405

メール：info@chiyoda-ces.jp

URL：https://chiyoda-ces.jp

